

蜜蜂被害軽減対策について

◆ 蜜蜂のへい死のうち農薬が原因だと思われる被害は、**水稻の開花期前後のカメムシ防除に使用した殺虫剤を直接浴びたことが原因の可能性が高い**とされています。

一方、県内では、果樹園などが付近にある場所で飼育している蜜蜂で、農薬が原因と考えられる死亡事例の報告があります。



● 蜜蜂へい死とは・・・
巣門前で蜜蜂が大量に死亡して山のように蓄積する現象。
舌を出した状態で死んでいる。



水稻開花期及びその2週間前後において、蜜蜂が水田に飛来することがあります。

◆ **カメムシ防除用殺虫剤に暴露する可能性の高い農薬散布時期及び**水稻開花期の前後2週間**においては、可能な限り水田付近での飼育を避ける**ようにしてください。

水稻開花期
・早植え(北毛、中山間、平坦部) 8月上旬～中旬
・普通期(平坦部二毛作地域) 8月下旬～9月初旬

◆ カメムシ防除用殺虫剤の使用状況及び時期は地域ごとに異なります。詳しくは、JAまたは農業事務所(普及指導課、地区農業指導センター)に御確認ください。

◆ 野菜・果樹・花等が飼育場所付近にある場合にも注意が必要です。**農薬使用者と情報共有を行い**、農薬の散布時には必要に応じて巣箱の退避等も行ってください。また、果樹園の近くで飼育する場合、果樹園の小草の開花期にも注意が必要です。

◆ 蜜蜂へい死の被害があった場合には、早めに家畜保健衛生所まで御連絡ください。

窓
口

蜜蜂に関しては、
中部家畜保健衛生所 電話:027-288-0371

農薬に関しては、中部農業事務所
普及指導課 電話:027-233-9255
渋川地区農業指導センター 電話:0279-23-1321
伊勢崎地区農業指導センター 電話:0270-25-1252





蜜蜂のトラブル防止について



設置場所周辺の環境のご確認を！

多くのトラブルは、周辺に住宅地や通学路等がある場所で発生しています。

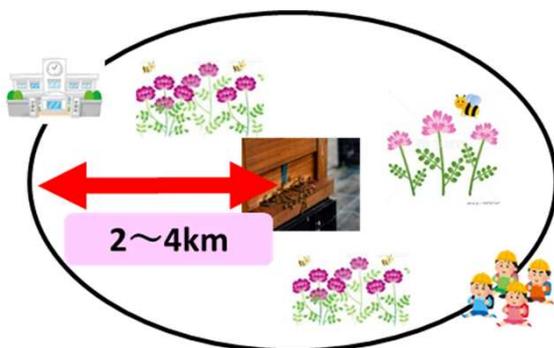
想定されるトラブルや苦情の例

- 刺されそうで怖いから飼育をやめてほしい（子供が心配）
- 巣箱を放置して勝手に分蜂してしまい、見た近隣住民が驚いて通報
- 自動車や洗濯物が蜜蜂のふんで汚された
- 蜜蜂を捕食しようとするスズメバチが周辺に群がるようになった
- 巣箱を狙って熊が出没するようになった
- 蜜蜂を飼育している人（場所）とのトラブル

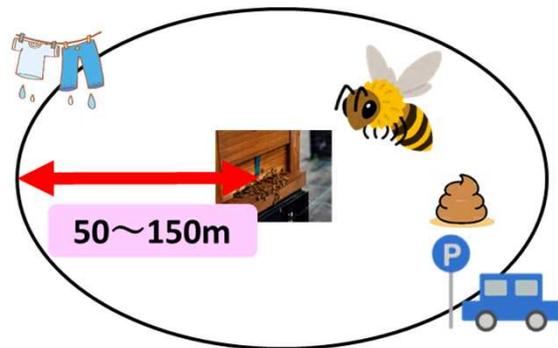


トラブル防止策

- 自分の土地以外に巣箱を置く場合は土地所有者の承諾を得ましょう。
- 近隣に危害を与えないよう飼育場所の周辺環境に配慮しましょう。
- 近隣の住民・蜜蜂飼育者との情報交換を行いましょ。
- 分蜂は春先～夏に起こりやすいため、適切な蜂群管理を。



採蜜の範囲は半径2~4km圏内とされます。



ふんが落下しやすいのは巣箱から半径50~150m圏内とされます。

毎年飼育届の提出を行ってください！

蜂群配置の適正化にご理解・ご協力を！